様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ７ 月 １４ 日現在

機関番号：３２６４７
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2019
課題番号：１５Ｋ１１５６７

研究課題名（和文）汎用的能力を基盤とした災害看護実践力を育む看護基礎教育システム構築と検証

研究課題名（英文）Construction and verification of the basic nursing education system to foster disaster nursing practical skills based on general-purpose abilities

研究代表者
谷岸　悦子（TANIGISHI, Etsuko）

東京家政大学・健康科学部・教授

研究者番号：３０２４８９６８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,700,000円

研究成果の概要（和文）：汎用的能力を基盤とした災害看護実践力を育む看護基礎教育システムは、大学内と地域（大学所在地・居住地・被災地等）を繋いで、災害と人々の生活と看護・医療・保健・福祉を実践的に学ぶことを目指す。災害時の看護者の役割に焦点をおき看護を追及するプログラムを検討した。
このシステムは、学内での講義とシミュレーション（演習）から地域での体験や実践活動へと学修の場を広げる学修を柱にして構成した。災害への備えの活動からは、災害は非日常であるが日常との延長線上にあり、日々の生活・看護活動が災害時の看護に繋がるものであると感じる機会となる。学生は、被災地の人々との交流や支援活動を通して災害を身近な問題と考える。

研究成果の学術的意義や社会的意義
現在の看護基礎教育は、学内での講義・演習に加え、災害看護を必要とする地域・被災地へと学修の場を広げる。汎用的能力を基盤とした災害看護実践力を育む看護基礎教育における教育システムは、学内と地域・被災地を結んで、人々の生活と災害、災害と看護（医療）を実践的に学ぶことを目指す。被災地の人々とのふれあいや支援活動を通して災害を身近な自分の問題と考え、看護の役割を考え看護活動の広がりを思考できる。災害は非日常ではあるが日常との延長線上にあり、日々の生活・看護活動がまた災害時の看護に繋がるものである。この教育システムは、双方向に行き来しながら災害看護実践力を育むと共に看護の発展に繋がるものである。

研究成果の概要（英文）：The objective of the basic nursing education system to foster disaster nursing practical skills based on general-purpose abilities is to establish the link between the university and community (in university site, resident area, disaster-stricken area, etc.) to practically learn nursing/medical care/health/welfare and livelihood of people and disasters. We evaluated the program to pursue the nursing and focus on the nurses' roles during disasters.
The system is constituted mainly by studies to spread the occasions from the on-campus lectures and simulations to the local experiences and practical activities. The disaster preparation activities provide the opportunities to sense that extraordinary disasters still lie on the extensions of ordinaries, and that daily lives and nursing activities in ordinary times will lead to disaster nursing. Through the support activities and the communications with evacuees in disaster-stricken areas, the students realize disasters are real-life issues.

研究分野：看護学

キーワード：災害看護　汎用的能力　看護基礎教育　災害看護実践力　教育システム　被災地　地域防災・減災　災害への備え

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究は、研究者らがこれまでの災害看護および教育に関わる研究を通して明らかとした災害時に必要とされる看護実践力とその基盤となる汎用的能力を看護基礎教育において、「日常から非日常」を体験する災害時の看護者の役割に焦点をおき追及するものである。看護基礎教育における学生が、病院･施設、大学内および生活する地域を学修の場として、災害看護を学び、看護実践力を身につける看護基礎教育システムを構築することである。展開するための研究・教育基盤を確立して、さらに災害看護実践力を応用し、進化させる教育を目的とする。

看護基礎教育における災害看護に必要な能力の習得状況を明らかにし、地域社会で生活する成人として自分を守るために必要な汎用的能力（自助）を大学生活で学ぶためのシステム作りは、災害時の看護者としての姿勢をも育むものとなると考える。

２．研究の目的

看護基礎教育における災害看護に必要な看護実践能力を身につけるために大学および地域社会で学修する教育システムの構築とその検証を目的とする。

３．研究の方法

災害は多種多様であり、かつ被災状況は常に変化し続けるため、看護の対象となる人々の生活、心身の状況も常に流動的であり変化している。それらの変化に合わせて看護者に求められる看護の役割、看護活動を判断し、実践できる能力が必要となる。それは、先を見通した上で、現状の問題を見出し解決する為に他職種・他組織、様々な人々との協働のもと行動する力である。さらに、看護の対象者と共に成長できる力を身につけていることも重要と考える。

そこで、災害看護の学修は、学内や自分の生活圏に留まらず、広く、多様な災害状況や様々な立場の人々に出会える場をシステムに組み込むことを目指し、学修機会・場の設定を段階的に計画し、以下の４点について取り組んだ。

（１）災害看護にかかわる教育の実践例、汎用的能力の活用にかかわる文献検討。

（２）災害看護に必要な能力を習得するための教育方法の検討。

①被災地での看護活動の視察および災害看護実施（体験者）への調査・文献による検討。

②正課内外で実施される救急法講習会、災害の備え、避難訓練時の学生への意識調査。

③災害看護に関する学修の場・機会の発掘。

（３）病院・施設と大学との連携に関する意見交換。

（４）看護基礎教育における学生参加型の災害看護授業の展開の試み。

４．研究成果

（１）教育システムへ導入する学修内容および場面の検討

①正課外で実施した救急法講習会の開催と意識調査

本研究以前の平成26（2014）年度から大学看護学科1年生・2年生対象として、災害時の自助・共助力となり、看護活動における基礎的な知識と技術となる救急法講習会を開催していた。内容は、救命の連鎖、手当の基本、成人の心肺蘇生、一次救命処置、AEDの手順、異物除去であった。平成26年度（70名）、平成27年度（79名）、平成28年度（105名）であり、講習内容に興味があるは89%、68.8%、96.9%であり、今回の学びを活用できそうは89%、71.9%、87.5%であったことから、日常における救急法の学修は意義あるものと考えた。大学の教育強化費の補助、また平成28年からは１年生に対する導入教育の一つとして取り入れ実施し、講習時の指導補助者として上級生（講習終了者）の協力を得た。この場面では1年生にとっては上級生の姿から自分たちの将来を描き、上級生は下級生に教えることで知識・

技術の確認と自分たちの成長の姿を感じていた。そして、自己を守り、他者を助けるための実践力の向上を図る機会となり、技術向上を目指すこと、非常時にこの力を活用することへの動機づけとなっていた。しかし、この救急法講習会は、一般の人を対象としている。そこで、看護専門職として求められる救急看護や災害看護へ継続していく学修プログラムにする必要がある。そのためには、この救急法講習会での学修を想起して、災害看護時に必要とされる応急処置、トリアージが実践できる力に繋げる専門的な知識と技術へと発展させていくことが重要となってくる。

②実習病院と大学との連携に関するシンポジウム開催

学生、教職員、医療関係者、地域住民などの立場から災害への備えと連携を検討することを目的とした。学生として生活する大学における災害への備え、大学の役割を考える機会として、学生・教職員・地域住民を対象とする公開シンポジウムを開催した。災害時の備えの要点は、大学と実習施設との連携、両者が設置されている地域特性・行政を含めた具体的な対応策を平穏時から確立することが示唆された。

③福島県原子力発電事故により避難している子どもとその家族への介入

趣旨説明・地域視察、保育園運動会での参加観察、保護者へのインタビュー、子どもへの感染予防指導の実施を主たる活動とした。原発事故の被災地である福島県にあるA保育園に通う子どもと保護者、教員の被災後5年となる日常生活を知り、看護支援活動を考える機会とした。生活の場である地域をフィールドとしたイベントへ有志学生と教員が参加協力した。子どもたちは、保護者や仲間と共に地域を歩き、地域の素晴らしさを探求する。自分の住む地域の自然・物・人に目を向けながら、安全の確認、危険とその対応を学んでいた。子どもと保護者の姿から看護の対象である「人々の生活と健康」「災害慢性期における看護のあり方」、そして被災したからこそ「自分の住む地域・生活の場を知り、考えている」こと、地域とともにあるとは何かを学生たちは考えていた。

④被災地での災害・防災、災害医療等を考える学習会・研修会への参加

東日本大震災の被災地である福島県・宮城県に加えて平成28年度熊本地震の看護支援活動の現状調査を実施し、教育内容として必要な要素・事柄の抽出・検討を実施する。

⑤国内の災害被災地での看護活動への参加および見学

宮城県（地震・津波）での健康教室、熊本県（地震）の地域づくり、福岡県（豪雨）でボランティア活動への支援（健康管理）への参加をした。

⑥国外での防災・減災プロジェクトおよび救援活動に関する参加観察、見学

バングラディッシュ（HORINAGOR；洪水、COX Bazar：難民支援・健康指導）での国内外団体・組織による医療支援・看護活動等の視察と住民および支援者とのディスカッションの機会をもつ。

⑦看護基礎教育における災害看護に関する授業展開（2単位30時間）

プログラムの例　ア．大学看護学科4年次前期　必修；2単位30時間
イ．１年次前期または後期　必修；2単位30時間
ウ．１年次後期　必修；2単位30時間　4年次前期　選択；1単位15時間
エ．１年次後期　必修；2単位30時間　１年次～3年次　必修；各看護学領域学修における災害看護を含む　4年次前期　選択；1単位15時間

（２）災害看護実践力を育む看護基礎教育システムの試案

本研究は、「日常から非日常」を体験する災害看護実践力を育むために汎用性能力を基盤と

した看護基礎教育システムの構築を目的とした。看護基礎教育４年間での教育プログラムは、上記⑦エをとり、大枠を示す。

1年目：講義（災害看護の概要）、机上シミュレーション（日常の中での自分自身の安全を守る備え、地域の特徴理解）、災害医療実践者の講話（災害医療の現場の実情、災害時における看護者・医療者の役割等)、記録映像を活用したイメージ化を図る。

災害医療におけるトリアージの学修時に、救急処置に関する基本的な講義・演習を含む。

2年目・3年目：看護専門職として生活の場、対象別、災害サイクルによる看護を講義、演習、領域実習を通して修得する。

4年目：災害看護に関する実践的な知識・技術の修得を目指し、被災者の体験、被災地での看護活動に触れる機会を提供できるようにする。課題は、看護学生が実習（活動）するには、安全の保証、時間や人数の制限、指導者の確保等がある。学生の参加を募り、被災地訪問・被災者との交流、被災地での看護活動参加を1年から4年間でできるようなプログラムを確立していく必要性を確認している。

この看護基礎教育システムにおいて、学生が災害看護に関する課題をもち探求的に4年間学修できる機会とその探求した成果を発表する場をもって学修達成の可視化を試みる。

災害看護教授担当教員は、被災地での看護活動、看護ニーズ調査への協力を行い、学生の学修機会の開拓へとつなげるとともに、科目担当者以外への協力を得ていく必要もある。学生は学修当初は、災害が自分の生活とかけ離れていたり、災害医療・看護が災害急性期と考えていたりするが、授業を通して災害医療・看護を広く捉えられるようになる。自分の生活の中での身近な問題であること、災害看護は災害急性期から中・長期、平穏期に渡って必要とされるものであること、災害看護は特別ではなく日常の看護活動と連続した看護活動であることを認識してくる。

（３）教育システム構築に向けて

①看護基礎教育における災害看護の実践場面への参加機会を確保することと学生が参加するにあたっての安全性の確保と保証を慎重に行うことの必要がある。

②学生の参加が可能な機会・場面でも学生の受入れ人数に制限があり、学生数に合わせたプログラムの準備の困難さがある。

③科目内での学習―教育内容の充実を図ったプログラム作成と課外活動での教育・指導にあたる教員及び指導者の災害看護、災害医療、災害時の救援活動における実践能力の向上を図る機会（打合せ・研修）が必要となる。現在は、災害看護、災害救援等にかかわるネットワークを活用して教育・指導に協力が得られる人材に依頼をしているため、災害看護の学修機会の整備に時間を要する。

④各看護領域での災害看護に関する教授内容を可視化し、4年間の教育プログラムにつながりをもち、発展させていく教育システムの構築の再検討が重要である。

（４）課題

①災害看護に関する授業・演習の教育=学習方法に関する評価により、年間および各学年での改善を図る必要がある。災害医療・看護に関する実践者・教育者・研究者とのネットワークをもち、最新の災害看護を学ぶ機会、災害看護教育の充実を図ることに努める。

②これまでに整備してきた災害看護を学ぶ機会・場への学生参加は人数制限があるが、広く参加を呼びかけ、学生の主体的な参加を促す。1年次から4年次のいずれかに参加でき、学年

を超えた交流ができる機会づくりや学生間での研鑽ができることも視野におき、4年間の災害看護学修プログラムの構築に着手する。

③学内外へ災害看護教育に関する具体的方法の提示、特に改善点に関する教材の獲得と開発、協力人材の確保にも積極的に取り組む。

（5）研究の限界と今後の課題

看護基礎教育における災害看護教育の実施における学生の学修成果、反応をより明確にするよう客観的データの収集・分析を行うことが最大の課題である。特に、災害看護教育実施前後での看護学生の汎用能力に関するデータ収集・分析を継続する。

また、看護基礎教育において災害看護の実践場面のへの参加機会を確保することと、学生が参加するにあたっての安全性の確保とその保証の説明と証明を確実なものとする。そのためにも災害看護と連動させる教育プログラムとして救急看護などの科目と内容を検討し、災害看護分野に関連する実践者、教育者、研究者とのネットワークをより広げ、災害サイクルの慢性期・復興期、静穏期も焦点化した看護活動の場(災害医療救援研修、セミナー、地域防災･減災訓練等)を確保し、学生が参加できる機会を増やすことである。

さらに教育にあたる教員および指導者の実践力向上を図る機会を確保する必要もある。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計12件（うち査読付論文　10件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　5件）

１．著者名 大澤力、岩田力、辰巳雅子	４．巻 59
２．論文標題 原発事故後の福島に生かすベラルーン地踏調査報告その１　－福島における子どもたちの健やかな成長のために－	５．発行年 2019年
３．雑誌名 東京家政大学研究紀要　人文社会科学	６．最初と最後の頁 127－135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 前田由紀子　立石和子　谷岸悦子　松林太朗	４．巻 ２２
２．論文標題 精神架における認定看護師の資格修得課程と認定後の経験	５．発行年 2018年
３．雑誌名 西南女学院大学紀要	６．最初と最後の頁 11-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 今留忍　横森久美子　谷岸悦子　長島文子　安達祐子	４．巻 58-2
２．論文標題 臨地実習における看護学生のコミュニケーション能力の変化-縦断的調査による2年次と３年次との比較-	５．発行年 2018年
３．雑誌名 東京家政大学研究紀要　自然科学	６．最初と最後の頁 5-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 小林洋子、前田久美子、小原真理子、大和田恭子、谷岸悦子	４．巻 第17号　第1号
２．論文標題 東日本大震災における赤十字の災害看護の伝承	５．発行年 2016年
３．雑誌名 日本赤十字看護学会誌	６．最初と最後の頁 P.1-P.15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小原真理子、前田久美子、小林洋子、根岸京子、谷岸悦子	4．巻 ー
2．論文標題 赤十字災害看護の特性を生かした災害看護の専門的看護職育成プログラムの開発	5．発行年 2017年
3．雑誌名 学校法人日本赤十字学園　平成26年度「赤十字と看護・介護に関する研究」助成研究報告書	6．最初と最後の頁 ー
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 谷岸悦子、齋藤正子、立石和子、齋藤麻子、岩田みどり	4．巻 39集
2．論文標題 福島県原子力発電事故により避難している子どもとその家族への介入－福島県内の幼稚園に通う子どもの保護者へのインタビューから－	5．発行年 2017年
3．雑誌名 東京家政大学生活科学研究所研究報告	6．最初と最後の頁 P.83-P.87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 立石和子、谷岸悦子、前田由紀子、松林太朗	4．巻 56集
2．論文標題 臨床で求められている新人看護師のエンプロイアビリティー看護管理者へのインタビューを通して	5．発行年 2016年
3．雑誌名 東京家政大学研究紀要（2）自然科学	6．最初と最後の頁 P.87-P.94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 立石和子、谷岸悦子、前田由紀子、松林太朗	4．巻 56 (2)
2．論文標題 臨床で求められている新人看護師のエンプロイアビリティ　－看護管理者へのインタビューを通して	5．発行年 2016年
3．雑誌名 東京家政大学研究紀要　人文社会科学	6．最初と最後の頁 87-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 中谷直史、青木翼、石原慎、谷合正至、安成英、宮下仁志、渡邉志、冨田雅史、森幸男、白濱成希、宮本和典、安部貴之、岡島友樹、瀧澤亜由美、谷岸悦子	4．巻 17 (2)
2．論文標題 病院・介護施設用電動ベッド高さ遠隔監視システムの開発	5．発行年 2015年
3．雑誌名 バイオメディカル・ファジィ・システム学会誌	6．最初と最後の頁 43-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 今留忍、 谷岸悦子、 中里萌	4．巻 55 (2)
2．論文標題 医療機関における患者サービスとしての“様呼称”に関する文献的考察	5．発行年 2015年
3．雑誌名 東京家政大学研究紀要　人文社会科学	6．最初と最後の頁 123-129
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 河原加代子、小原真理子、石田千絵,他	4．巻 20 (2)
2．論文標題 避難所における要援護者トリアージの開発 ： 教育教材の評価	5．発行年 2015年
3．雑誌名 日本集団災害医学会	6．最初と最後の頁 284-290
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 大澤力、 増田まゆみ、 岩田力、他	4．巻 38 107-114
2．論文標題 東日本大震災をいかに乗り越えるか ： 福島県における子どもの実態と保育の研究(3)（温故知新プロジェクト）	5．発行年 2015年
3．雑誌名 東京家政大学生活科学研究所研究報告	6．最初と最後の頁 107-114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計14件（うち招待講演　0件／うち国際学会　3件）

1．発表者名 谷岸悦子、横森久美子、　今留忍、安達祐子
2．発表標題 コミュニケーション能力の因子構造にみる看護学生の経年的変化
3．学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4．発表年 2018年

1．発表者名 大沼由香、立石和子、木村涼子、小野八千代、高橋育子、佐藤喜根子
2．発表標題 看護学生のコミュニケーション手段の特徴ー新説看護短大入学時の自己・他者評価より
3．学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4．発表年 2018年

1．発表者名 横森久美子　今留忍　谷岸悦子　長島文子　安達祐子
2．発表標題 臨地実習における看護学生のコミュニケーション・スキルの修得－基礎実習修了後と領域実習修了後の比較－
3．学会等名 第37回日本看護科学学会学術集会
4．発表年 2017年

1．発表者名 立石和子　前田由紀子　谷岸悦子　松林太朗
2．発表標題 看護実践能力促進のためのキャリアプランニング－認定看護師を目指す動機に焦点をあてて－
3．学会等名 第37回日本看護科学学会学術集会
4．発表年 2017年

１．発表者名 齋藤正子、立石和子、谷岸悦子、齋藤麻子、 岩田みどり
２．発表標題 災害中長期の健康支援活動－福島県原子力発電事故に影響をうけた園児と保護者－
３．学会等名 日本災害看護学会　第18回年次大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 石田千絵、小原真理子、久保祐子、齋藤正子
２．発表標題 東日本大震災の避難所におけるA看護師の判断と初期活動の特徴
３．学会等名 日本災害看護学会　第18回年次大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 Etsuko TANIGISHI,Msasakko SAITO,Kazuko TATEISHI,Asako SAITO,Midori IWATA
２．発表標題 The Intervention In Lives Children and Their Fmilies Who Are Evacuating Because of the Fukushima Nuclear Accident -From the Interviws with the Parental Guardians of Children Attending Kindergarten in Fukushima-
３．学会等名 The 4th World Society Disaster Nursing International Academic Conference Jakarta,Indonesia
４．発表年 2016年

１．発表者名 Mariko Ohara,Masako Saito, Yoshiko Tsukada
２．発表標題 Development of Community Disaster Prevention and Mitigation Program for Village Leaders in Disaster prone area in Bangladesh Comparison before and after training program
３．学会等名 The 4th World Society Disaster Nursing International Academic Conference Jakarta,Indonesia
４．発表年 2016年

１．発表者名 今留忍、横森久美子、長島文子、谷岸悦子、安達祐子
２．発表標題 因子構造にみる看護学生のコミュニケーション能力の変化
３．学会等名 第35回日本看護科学学会学術集会
４．発表年 2016年

１．発表者名 今留忍、谷岸悦子
２．発表標題 因子構造にみる看護学生のコミュニケーション－領域別実習開始前と全課程実習修了後との比較－
３．学会等名 日本看護科学学会学術集会（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 Tateishi K. Tanigishi E. Maeda Y. Ota M. Matsubayashi T.
２．発表標題 About the employability which Japanese hospital staff seek when hiring new nurses graduated from college. -Through the interviews with nursing managers
３．学会等名 世界看護科学学会（ENDA & WANS Congress 2015）
４．発表年 2015年

１．発表者名 立石和子、谷岸悦子、齋藤麻子、岩田みどり、今留忍
２．発表標題 避難訓練にみる看護学生の防災・減災に対する意識に関する検討
３．学会等名 日本看護教育学会
４．発表年 2015年

１．発表者名 Tateishi K. Tanigishi E. Maeda Y. Ota M. Matsubayashi T.
２．発表標題 THE EMPLOYABILITY WHICH JAPANESE PSYCHIATRIC HOSPITAL STAFF SEEK WHEN HIRING NEW NURSES- THROUGH INTERVIEWS WITH NURSING PRACTICE INSTRUCTORS
３．学会等名 世界看護学会（015）（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 Tanigishi E. Tateishi K. Maeda Y. Ota M. Matsubayashi T.
２．発表標題 JAPANESE HOSPITAL TRAINING SYSTEMS FOR NEW NURSES FROM THE PERSPECTIVE OF COMPETENCY: INTERVIEWS WITH NURSING MANAGERS
３．学会等名 世界看護学会（ICN　2015）（国際学会）
４．発表年 2015年

〔図書〕　計12件

１．著者名 森道子、今留忍、鈴木幹子、谷岸悦子、他	４．発行年 2018年
２．出版社 メジカルフレンド社	５．総ページ数 680
３．書名 看護学入門6　基礎看護１　（第6版）	

１．著者名 小原真理子、酒井明子監修、小原真理子、立石和子、他	４．発行年 2018年
２．出版社 南山堂	５．総ページ数 303
３．書名 災害看護：心得ておきたい基本的知識（改定第3版）	

１．著者名 森美智子・今留忍編集　今留忍、森美智子　谷岸悦子他７名	４．発行年 2017年
２．出版社 メヂカルフレンド社	５．総ページ数 53.3
３．書名 看護学入門６　基礎看護Ⅰ　第5版	

１．著者名 谷岸悦子	４．発行年 2016年
２．出版社 メディカルフレンド社	５．総ページ数 11
３．書名 看護学生　Vol.64　No.7	

１．著者名 谷岸悦子	４．発行年 2016年
２．出版社 メディカルフレンド社	５．総ページ数 55
３．書名 看護学入門６　基礎看護Ⅰ　看護概論／基礎看護技術	

１．著者名 谷岸悦子	４．発行年 2016年
２．出版社 メディカルフレンド社	５．総ページ数 11
３．書名 看護学生　Vol.64　No.9	

１．著者名 谷岸悦子	４．発行年 2017年
２．出版社 メディカルフレンド社	５．総ページ数 10
３．書名 看護学生　　Vol.65　No.1	

１．著者名 今留忍	４．発行年 2016年
２．出版社 メディカルフレンド社	５．総ページ数 55
３．書名 看護学入門６　基礎看護Ⅰ　看護概論／基礎看護技術	

１．著者名 谷岸悦子	４．発行年 2015年
２．出版社 メヂカルフレンド社	５．総ページ数 21
３．書名 月刊雑誌　看護学生	

１．著者名 今留忍	４．発行年 2015年
２．出版社 メヂカルフレンド社	５．総ページ数 37
３．書名 月刊雑誌　看護学生	

1．著者名 今留忍	4．発行年 2016年
2．出版社 メヂカルフレンド社	5．総ページ数 8
3．書名 月刊雑誌　看護学生	

1．著者名 立石和子	4．発行年 2016年
2．出版社 メヂカルフレンド社	5．総ページ数 14
3．書名 月刊雑誌　看護学生	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	立石　和子 (TATEISSHI KAZUKO) (80325472)	仙台赤門短期大学・看護学科・教授 (41310)	
研究分担者	今留　忍 (IMATOME SHINOBU) (30306667)	東京家政大学・健康科学部・教授 (32647)	
研究分担者	齋藤　麻子 (SAITO ASAKO) (70720390)	東京家政大学・健康科学部・講師 (32647)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	大澤　力 (OSAWA TSUTOMU) (20310394)	東京家政大学・子ども学部・教授 (32647)	
研究分担者	小原　真理子 (OHARA MARIKO) (00299950)	清泉女学院大学・看護学部・教授 (33605)	
研究協力者	岩田　みどり (IWATA MIDORI)		
研究協力者	齋藤　正子 (SAITO MASAKO)		